

2024年5月9日作成 Ver.1.0

《情報公開文書》

本邦の新型コロナウイルス感染症流行初期に
使用された治療薬の有用性の検討

研究の概要

【背景】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2019年から世界中で流行しましたが、流行の波に伴う患者数の増減を繰り返しながらも流行状況が持続しており、重症化することも未だにあります。治療方法の情報がほとんどなかった流行初期では、重症の肺炎やインフルエンザ等の他の疾病の治療薬が重症のCOVID-19へ使用されていました。

【目的】

本研究の目的は、診断群分類（DPC；Diagnosis Procedure Combination）データ調査研究班の有する全国規模の大規模DPCデータベースを用い、COVID-19流行初期に他の疾病の治療から応用されていた治療薬の有用性を明らかにすることです。

【意義】

治療法の確立していなかったCOVID-19流行初期のデータを改めて評価することで、現在使用されているCOVID-19の治療法以外の有効な治療法を探索したいと考えています。

【方法】

本研究は後ろ向きコホート研究と呼ばれる種類の研究で、診療記録などの現存する情報を元に過去にさかのぼって情報を探していく研究手法です。今回使用するDPCデータとは、日本の急性期病院における診療や治療の内容、費用などが記録されたデータであり、様々な研究で使用されています。本研究では、DPCデータ調査研究班によりDPCデータベースから本研究に必要な情報のみを、既に匿名化された状態で提供を受け、解析を行います。提供を受けたデータを用いて、COVID-19に対して有効な可能性のある治療薬の効果を評価します。

対象となる患者さん

2020年1月1日から2020年9月30日の間に、DPC調査研究班にデータを提供している全国の病院に入院した患者さんのうち、COVID-19と診断された患者さん。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を DPC データより収集します。

- ・患者背景
- ・入院時情報
- ・病名
- ・重症度評価
- ・病院属性
- ・処方内容（処方日数および量）
- ・処置/検査の実施病日
- ・治療経過

情報の利用開始予定日

本研究は 2024 年 5 月 23 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

利用させていただくデータは匿名化された情報であり、個人の情報を特定して対象から外すことは困難です。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2029年3月31日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 呼吸器内科 氏名：城戸 貴志 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7273
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等について】

長崎大学病院 呼吸器内科 城戸 貴志（医師）
 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号
 電話：095（819）7273 FAX 095（849）7285

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200
 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）